

いつまでも お元気で ~ふくろう敬老会~



▲左より小倉裕子様 88歳・勝羅綾子様 99歳・山崎芳美様 88歳

9月19日(日)に敬老会を開催しました。
今年を密を避けるためユニットずつに分けて午前、午後と行い、各ユニットの入居者全員が参加することが出来ました。
節目のお祝いでは、今年はおリピックの年でもあり、プレゼントも喜んでもらえて良かったです。

涙ぐむ入居者もおられました。お贈りしました。
戻られて「これは特別な人しかもらわれへんねん」と見せながら我慢されていました。とても喜んでもらえて良かったです。
ふれあい座の劇では、コロナ菌をみんなで作っつけようと玉を投げて無事退治することができました。
まだまだ新型コロナウイルスの感染が危ぶまれますが、施設内で楽しんでいただけるように行事等を進めていきたいと思えます。

生活援助係
小椋 滝美

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

2万円負担増!! 低所得者対策を縮小後退の介護保険補足給付改定

平成18年の春「淡路ふくろうの郷」が開所しました。奇しくも、国連・障害者権利条約の採択の年と重なりました。「ひとり一人を大切に共に生きる」という施設・法人理念の実現をめざして早くも15年。10月24日に多大な支援への感謝と決意を込めて15周年の式典を行う予定です。

新型コロナウイルス感染症が拡大し緊急事態宣言下
の8月、弱者からの負担を増やす介護保険補足給付の要件が改悪されました。

要件見直しについて、厚生労働省の言い分は「高齢化が進む中で、必要なサービスを必要な方に提供できるようにしつつ、負担の公平性と制度の持続可能性を高める観点から一定以上の収入のある方に対して、負担能力に応じた負担を求める見直しを行います」ということで令和3年度報酬改定が決定されました。

「介護を社会全体で支えよう」「家族の介護負担を減らす」「必要なサービスを自由に選べる」という理念を掲げて、介護保険制度が始まった平成12年当初、食費・居住

費は介護保険の給付に含まれていました。しかし、国の平成17年「ホテル宿泊者と同じように支払うべき」と、金額自己負担に改悪されました。この時に負担があまりに大きくなるため、低所得者である住民税非課税世帯の負担軽減策として導入されたのが「補足給付」です。今回の改定では、食費負担増では、第3段階②の施設入所者は、2万2千円引き上げとなります。短期入所では、第2段階③第3段階②まで1日当たり210円〜650円の食費負担増額となります。

以下となり本人の資産要件が厳しく引き下げられます。少しでも老後のためと積み重ねた大切な預金がこの回の要件で補足給付の対象から外れ、負担金が増えることとなります。厚生労働省は将来、不動産についても資産要件に加えることを検討しています。

淡路ふくろうの郷入居者の中でも高額な4万円、自己負担が増える方がいます。「頑張って貯めた人が損をする」そのような制度は悪法ではないと思えます。介護保険改定であるから「仕方がない」のではなく、戦後の日本を支えてきた多くの介護を必要としている高齢者や家族が安心して

さらに資産要件では、改定前の基準は預貯金「本人1千万円以下」(夫婦で2千万円以下)でしたが、第2段階650万円以下、第3段階1550万円以下、第3段階②500万円

私たちが忘れず、訴え続けることが大切なことだと思います。(淡路ふくろうの郷施設長 狭間 孝)

ふくろう物語 前川 やす子様

昭和5年11月19日生まれの90歳です。南あわじ市八木寺内でお生まれになり、6人兄弟で2人の姉、2人の弟、1人の妹がいます。

子供の頃は親に連れられて山に薪を拾いに行ったり、畑仕事を手伝ったりしていました。学校を卒業されたからは、真面目で几帳面、細かな手作業が好きで一つのことに打ち込む、そんな性格から、洲本市にあったカネボウ訪績工場で働いておられました。

24歳の時に大正15年生まれの土木建築の仕事をしてい



若かりし頃のやす子さん

た旦那様と見合い結婚をされました。結婚してからは南あわじ市倭文に住所を移され、2人の子供にも恵まれました。子育てをしながら自宅近くの窯業会社に勤め、家の農作業の他に乳牛、山羊、鶏を飼っていて、乳牛から絞った生乳を出荷されていきました。その旦那様は平成25年に亡くなられました。

やす子さんは20歳頃から耳が聞こえにくくなっています。息子様は、「父は真面目で仕事熱心でしたが、昔気質で頑固な性格もあり、母は色々苦労したこともあったと思います。ですが、辛抱強く弱音を吐くのが嫌な性格上、そんなことを感じさせることはありませんでした。」と話してくださいました。

加えて、「私には優しくも厳しくもあり、悪い事をすればしっかりと叱ってくれました。また、若い時から縫物、ミシンが得意な事もあり、服を作ってくれたりもしました。手料理ではとても美味しい煮しめを作ってくれたり、傍で見守りながら

集中して取り組むやす子さん



育ててくれました」と息子様。難聴の仲間との交流を楽しみに、おのころの家に約10年間週3回通われていました。ちぎ

り絵や細かな手作業を特に熱心にされていたそうです。その後、2度の転倒や肺炎で入院され車いすを利用するようになり、令和2年11月13日からロングショートを利用後、令和3年2月13日にふくろうの郷に入居されています。

ふくろうの郷では、書道講座、ちぎり絵、手芸をするときには特に普段との優しい雰囲気とは異なり、真剣さが見取れます。また、やす子さんの優しい性格が出ている出来事に、職員がお手伝いをしたとき必

ず「ありがとう」と答えられます。その瞬間、職員にも笑みが浮かびます。「あっ、息子様がやす子さんから感じていた安らぐ気持ちも、こんな感じだったのだなあ」と思いました。

息子様にふくろうでの生活で望むことは何ですかと尋ねたところ、「今までと変わらず、穏やかに暮らしてほしい、入居者の皆さんと仲良く暮らしてほしい」でした。

穏やかに暮らすとは、安らげる環境、寛げる環境だとお二人から改めて教わりました。

これからは私がおの思いに少しでも答えていき、近づけていきたいと思えました。

(生活援助員 魚崎 恭行)

生きた時代・社会

昭和5年	満州事変
昭和23年	身体障害者福祉法
昭和41年	淡路鉄道廃線
昭和56年	国際障害者年
昭和61年	鐘紡紡績洲本工場終焉
平成7年	阪神淡路大震災
平成10年	明石海峡大橋開通
平成25年	東日本大震災

2021年10月24日発行 学びあい文庫⑦

現在、7弾目となる学びあい文庫を鋭意作成中です。今回の主人公は、竹邊正晴さん。50年もの間、社会的入院をさせられてきた精神科病院からの帰還者です。

竹邊さんの人生を通して、精神科病院が国から

担わされてきたものや、家族の思い、そして施設での地域生活を送れるための取り組みについて学べるようになっていきます。

10月24日のふくろうふれ愛まつりにてお披露目です。ぜひお求めください。

(学びあい文庫編集委員 川満和則)



▲ユニット入り口（清潔ゾーン）でガウン着用

清潔・不潔のエリアを明確にして区切ることで、不潔な区域から病原体を持ち出さないように、人や物の出入りを制限し誰が見ても「エリアが分かれている」ことがわかるようにすることが重要です。

各エリアを職員が行き来するのではなく、各エリアの受け持ちを決めて、感染症にかかっている入居者が入るエリアの中でも、動線が交差しないように、人の動きにも注意が必要です。

実際の介護現場で研修を実施すること、日々の職員・入居者の動きがイメージしやすく、こんな場合はどうしたら良いのか？入退室の方法やゴミの出し方等、細かなところまで対応策について話し合うことができて良かったです。

入居者の方の身体状況等が異なるため、当日、参加できなかった職員からは、各ユニットの係会議の中で、自分達だったらどのような対応が求められるのか？改めて相談を行い共有し、いざ、起こった際には、慌てずに落ち着いて対処できるようにしておきたいといった声がありました。

職員研修
「コロナ感染者出たと想定し
シミュレーション」
事業継続のために」

職員研修会を8月24日（火）に実施しました。感染対策委員会のメンバーが中心となり、もし、新型コロナウイルス感染症陽性者が発生したらと想定して、実際に現場での動きを確認しました。

まずは濃厚接触者の特定を行います。ゾーニング（区域分け）については、ユニット単位で閉鎖・隔離を行う。但し、寝たきりの入居者については居室で対応する。

中川原小学校2年生の 生徒さんたちが来てくれました

9月21日（火）中川原小学校2年生8名の生徒さんたちが「町たんけん」で淡路ふくろうの郷に来てくれました。ガラス越しの対面でしたが、入居者さんたちも孫世代の生徒たちの来訪に笑みがこぼれます。

事前に担任の先生からふくろうの郷に質問状をいただきました。「車いすには何人乗っていますか？」、「部屋は個室？ご飯はどこで食べるの？」等、疑問に思うことを率直に尋ねられます。「何人が暮らしているのですか？」70名が暮らしていると伝えると、全校生徒よりも多いことに大変驚いていました。保育園児の時に、ふくろうふれ愛まっりの舞台発表でダンスを踊った経験がある生徒もおられ、久しぶりに来たよと話され、入居者の方々も子供たちとの交流を喜んでおられました。

最後に生徒全員から手話で「ありがとう」とお礼を述べられ、再会できることを約束してお別れしました。

（副施設長 加野 明宏）



10月・11月 ふくろうの暮らし

- 10/19（火）入居者懇談会
ふくろう大学絵手紙講座
おのころパン販売
- 10/20（水）ふくろう喫茶
- 10/24（日）15周年記念式典
ふくろうふれ愛まつり
- 10/29（金）ふくろう大学絵書道講座
回想法
- 11/ 1（月）ふくろう理髪店
- 11/ 2（火）ふくろう大学演劇講座
- 11/ 3（水）誕生会
- 11/ 5（金）おのころパン販売
- 11/ 9（火）ふくろう工房ちぎり絵
- 11/12（金）ふくろう工房手芸

10月より兵庫県でも緊急事態宣言が解除され、段階的に行動制限が解かれていきます。しかし、気を緩めることなく、引き続き感染対策を続け、病原菌を持ち込まないよう、努力していきたいと思えます。

（生活援助係 石黒 裕規）

移動相談 旧東浦地区を訪問



退院されたばかりの宇野さん
訪問を心待ちにしていた宇野レイ子さん。難聴者でもうすぐ91歳。3か月前に骨折され数日前に退院されたばかりです。10数年前にご主人を亡くされ一人暮らしです。退院すると近所の知り合いの方が亡くなったり転居したりで、とても寂しくなっ

淡路聴覚障害者
センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階



9月8日(水) 旧東浦地区を訪問。東浦事務所に向い、予約相談がないことを確認した後、家庭訪問を行いました。

▲「元気してるよ〜」早くおのころの家への通所を再開したいと宇野さん



こんにちは。お元気にされてますか？

ありがとうございます！来てくれてうれしいです

たこのことです。お話好きな宇野さん。九州で8人兄弟で生まれたこと。母親を早く亡くされ、親代わりとなって幼い妹たちを育てたこと、ご主人との出会いや震災で自宅が被災されたことなど次々と苦労話をお聞きしました。持ち前のたくましさで乗り越えてこられ、今の宇野さんがあると思います。今は京都、大阪にお住まいの息子さんたちが支えてくれています。



▲「えっ。宇野さんがおのころに通所再開したいって。嬉しい〜。早く来てほしい」と宮田さん

「待ってたのよ」と宮田さん

次に宮田和枝さん宅を訪問。宮田

さんは「おのころの家」に通われていますが、今日はお休みの日で訪問を待っていていました。宇野さんとは難聴者どうしで、おのころの家に長年一緒に通所し、大の仲良し。さっそく宇野さんの状況をお話すると、とても喜ばれ、「早く来てほしい、楽しみ。みんな宇野さんのことを心配しているの、いい報告ができる、早速明日みんなに報告したい」とのこと。

宮田さんは現在86歳。息子さんご家族と一緒に住んでいます。自分

が一人っ子だったため寂しがり屋。たくさんの人と話すのが大好きとのことで、次々とお話されます。ご家族の食事作りを任せられ、若い人のメニューを考えるのはしんどいと話す一方では、じっとしているのが苦手な宮田さん、孫から喜ばれたり、家事を任せられ家族の一員としてあることの誇りもあります。その忙しい日常の中でおのころの家に週3回通い、仲間と何気ない会話をすることが気持ちも和むし、最上の喜びとなっているとのこと

他に4件訪問。亡くなっていた方1人、入院されている方2人など、高齢の方は生活状況の変化があり訪問を密にし、関係機関との連携も大事であると考えます。

訪問し声をお聞きする中で、やはり集まり、交流することが、心の支えとなっていることに気づかされました。センターでも、早く社会生活教室など工夫し、集まる企画を考えていきたいと考えています。

10月は旧西淡地区を訪問します



2021.09/30

**中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター**

☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

ふれあい研修会実施②

9月30日(木)午後5時半から約1時間、ふれあい研修会(2回目)を実施し、14名の参加がありました。「おのころの家について」協会結成・大震災があらわにした未就学高齢者への支援とあつちの屋移転への準備」の橋詰の講義がありました。

職員からの感想

淡路島で聴力障害者協会や聴覚障害者センター、淡路ふくろうの郷、おのころ作業所等が発足・設立・開所した経緯、ろう者の方々への支援や取り組みの内容をパワーポイントにより当時の映像を交えながら説明いただき、将来の構想についてもお話しさせていただきました。法人職員の一員として関わられた方々の思いや努力を胸に、高齢の方や障害をお持ちの方々を安心して暮らせるよう、住みよい地域づくりに少しでも貢献していければと思います。(萩原 孝)

おのころの家について

～協会結成・大震災があらわにした社会的孤立、未就学高齢者への支援とおのころ屋移転への準備～

- ① 淡路聾唖倶楽部から淡路聴力障害者会へ
 - ・交流する協会から交渉する協会
- ② 阪神淡路大震災があらわにした未就学高齢者の実態
 - ・震災後、淡路島で救援活動に当たって
 - ・淡路聴覚障害者センターにろうあ者の人たちに様々な相談が寄せられる
- ③ 「おのころ作業所」開所～「中川原地域ふれあいセンター」に移転するまで
 - ・高齢者介護ボランティア
 - ・地域活動支援センター、就労継続支援B型事業移行
- ④ 「中川原地域ふれあいセンター」に移転後の活動状況について
 - ・農業班・室内班の作業、おたがいさま活動の様子
- ⑤ おのころ屋移転への準備について

利用者さん紹介



全部自分で仕上げました。おのころの家の伊月さん頑張っています。パッチワークの配列やカバンに縫い付ける位置、向きも自分で考えました。内袋と外袋の縫い合わせも一発でピッタリ。

(支援員:興津)

参加無料!!
わくわく☆ドキドキその瞬間を楽しもう



庄崎隆志(演劇人)

～ ボディランゲージ遊学のススメ ～2021

カラダの動きと音をつなぐ簡単なルールのもとに、
演劇人庄崎さんとコントラバスの田嶋さん・田邊さんと
大人も子どももみんな一緒にカラダ音楽をつくっていく

楽しいワークショップ

田辺和弘(コントラバス)



【開催日時】2021年11月7日(日)

午前10時 ～ 11時30分

【会場】中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター
洲本市中川原町中川原 222-2

SAWAJIユニバーサル演劇プロジェクト

神戸長田ぶくろいの社

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1

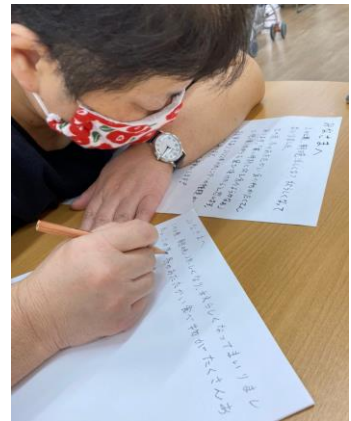
電話：078 798 7940

FAX：078 798 7941

「きょうされん」の作業
生活介護

「きょうされん」をご存じですか？
障害のある方が描かれた絵をタ
オルやカレンダーなど商品にし
たりしています。また、注文した(食
品・物品)金額の一部が利用者のお
給料になる仕組みになっています。

生活介護では、ストレッチ・洗濯
物の取り込み↓回し・たたみ↓棚に
しまう」といった一連の作業など
以外にも、「きょうされん」の案内文書
き↓書き終わった案内文とともに
商品カタログ・注文票を一枚ずつ取
る↓部数分封筒に入れる↓配布↓
注文発注後に届いた商品の仕分け
↓商品お渡し」も随時しています。
利用者のその時の体調等に合わ
せたり、文字を書くのが得意、絵を
描くのが得意など、それぞれの得意
なことに応じてお仕事をしていた
だいています。



▲案内文を書いています

利用者が「きょうされん」のお仕事
を始めたのは、昨年度の「バレンタ
ン・ホワイトデー企画」で、長めの文
章を書くことに慣れていなかったの
か、「疲れた」と言われることが多か
たです。

今回で3回目になり、以前よりも集
中できるようになったと感じていま
す。生活介護にお給料が入ることを説
明してモチベーションが上がった利
用者もあり、お仕事を頑張るきつかけ
になっているようです。



▲色塗り中。あと一息！

希望をひとつひとつ叶えましょう

『なかま相談』では、翌月の行事をみ
んなで相談して決めます。コロナの前は
お出かけや食事に行っていました。今
は出かけることができないので作業所
の中でできることをしています。みんな
に希望を聞くと大体デザート作りや調
理になります。

9月はお好み焼きとシチュー作りで
した。今回はできるだけ利用者によつて
もらうことにし、買い物にも行ってもら
いました。

当日は、担当に分かれて調理開始。材
料切りもみんな頑張りました。普段見
ているだけの利用者も、今回は野菜のカ
ットをすることができたり、少しずつで
すが一人一人が積極的に作業できるよ
うになってきています。

シチューはカレーとクリーム。途中ま
で材料と一緒に準備し、それぞれの鍋で
煮込みました。お好み焼きは一人分ずつ
材料を分けて4台のホットプレートで
フル稼働して焼いていきました。早くに
焼いた人は全員が焼き終わるまで待つ
て、ちよつと冷めてしまったけれど、み
んなでおいしくいただきました。



神戸施設建設募金

目標1億円を突破しました

7月31日 99,743,068円

8月31日 100,210,378円

9月30日 101,094,722円

募金活動は終結します。なお法人事業への寄
付は受付けております。

引き続きご支援お願いします